

がんサポートブックえひめ 活用状況アンケート

○実施期間2022年11月 ○15施設中11施設回答

※複数回答がある場合は再掲

1. 配布方法	
相談に来た人に渡す	8
緩和ケア認定看護師から渡す	2
医師から渡す	2
病棟看護師から渡す	1
臨床心理士から渡す	1
職員は限定せず相談対応した職員が渡す	1
総計	15

※複数回答がある場合は再掲

2. 配布のタイミング	
相談時	10
診断時	3
入院時	1
病棟での説明時	1
診察時	1
総計	16

3. 配布の工夫
がんサポートブックえひめと一緒に「がんと診断されたあなたへ知ってほしいこと」「がんサポートサイトえひめリーフレット」「当院のがん相談支援センターリーフレット」を渡している
総合医療支援室にてがんサポートブック含むがん関連のチラシ・パンフレットをセットにしておき、相談時にお渡しできるようにしています。
がん患者さんが手に取りやすいように、院内広報コーナー2カ所に置いています。
がん相談支援室、1階の図書コーナーに配置しており、自由に持ち帰れるようにしている。
医師がサポートブックえひめを渡して、相談支援センターを紹介する。
緩和ケア認定看護師が相談支援センターのリーフレットを渡す。
病棟看護師がサポートサイトえひめを渡し、相談支援センターを紹介する。
各スタッフより患者さんの状況・タイミングをみて渡す
各病棟と外来フロアに設置しています。職員にもがんサポートブックを案内しており、周知を図っています。がん認定看護師やMSWがサポートブックを管理している為、何かあれば我々に声を掛けてもらう様にしています。
支援センター前に書籍や配布物と一緒に配置する
院内の掲示物置き場に設置するよう申請中
外来待合スペース、病棟デイルームに設置している。

4. その他相談支援センターの広報の工夫
医師から相談支援センターについて情報提供してもらっている
医師、外来師長、病棟師長、メディカルアシスタントへ周知し、外来・病棟の医師、看護師、メディカルアシスタントと連携していく予定です。
<ul style="list-style-type: none">・がん患者さんが手に取りやすいように、院内広報コーナー2カ所に、がん相談支援センターの冊子を置いています。・入院支援、各病棟、各診療科外来へがん相談支援センターの冊子を配布しており、必要に応じて、がん患者さんへ渡してもらっています。・各診療科外来へ、がん相談の対応項目を記載した外来支援のフローチャートを配布しており、がん患者さんの支援に繋がるような工夫をしています。・来院されたがん患者さんに見やすい正面玄関に、がん相談支援センターのポスターを掲示しています。・入院時にお渡ししている資料と一緒に、がん相談支援センターの場所の案内図をお渡ししています。
がん相談支援センターの案内のポスターを、外来の待合室に掲示している。
院内の情報コーナーに自由に手にできるよう、がんサポートブックえひめや相談支援センターのリーフレットを掲示する。
病棟にがんサポートブックえひめを配布する。
ケーブルテレビによる広報番組の作成
相談支援センターはサポートセンターでもあり他のスタッフからも必要時に渡せるように置いている
外来等に支援センターのポスターを配置している 当院の現状では、外来受診時に医師や看護師からお渡しする体制が出来ていない状況です。今後、外来部門とも相談の場を設け、がんサポートブックえひめの活用について検討していく予定としています。
相談があればお話をしています
ホームページ、病院誌、入院案内、院内デジタルサイネージなどを利用し相談支援センターの広報をしている。
診断から治療開始段階の患者さんが必ず一度はがん相談支援センターを訪問できる体制（場所確認も含む）を院内で検討中。（とくに入院にならない場合）